



OKAMURA REPORT

第88期 報告書

2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日 | 証券コード : 7994



オカムラのミッション

豊かな発想と確かな品質で、
人が生きる環境づくりを通して、
社会に貢献する。



株主の皆様におかれましては、日頃より当社への格別のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

オカムラグループは、「豊かな発想と確かな品質で、人が生きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとし、「人が生きる社会の実現」を目指しています。顧客のニーズを的確に捉えたクオリティの高い製品とサービスを社会に提供することに努め、企業価値のさらなる向上と社会課題の解決に取り組んでいます。

当社グループでは、2024年3月期から2026年3月期までの3カ年を対象とする中期経営計画2025を策定いたしました。

中期経営計画2025では、「新たな需要の創出」を目指して、時代の流れを捉え、提案力と製品力を磨き、「需要創出型企業」への変革を加速します。中期経営計画2022で掲げた基本の方向性を踏襲しながらも、これからの時代に対応できる経営基盤の強化に取り組んでまいります。

加えて、持続的成長を支える従業員のエンゲージメント向上に向けて人財育成と働きがい改革を一段と進め、従業員一人ひとりが自分らしく生き活きと働くことができることで、環境の変化に対応できる「強いオカムラ」を目指してまいります。

また、サプライチェーン全体における地球環境負荷の低減を徹底し、2050年カーボンニュートラル実現に向けた長期的な取り組みを実行するとともに、事業を通じた社会課題への

取り組みを推進していきます。

オカムラグループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを通じて社会に貢献し、「人が生きる社会の実現」を目指します。

皆様には、今後も一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

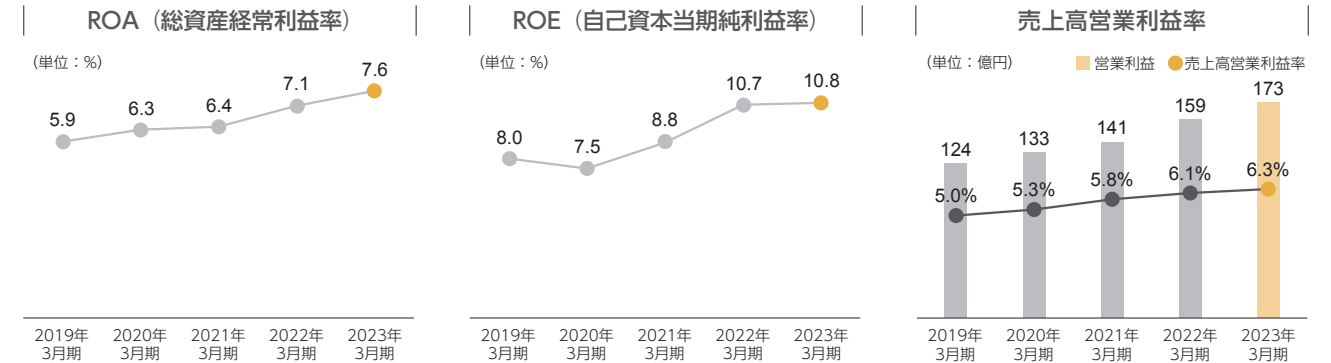
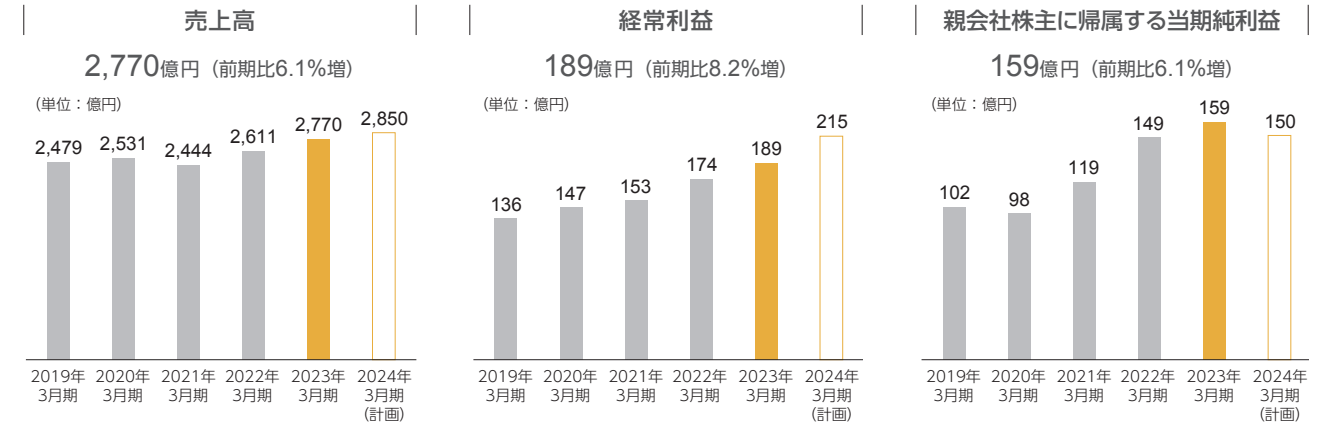
■ 当期の概況について

当連結会計年度の国内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の収縮から回復傾向にあるものの、ウクライナ情勢を巡る地政学的リスク、諸資材・部品の価格高騰、世界的な金融引き締めにもともなう急激な金利・為替変動に銀行不安も加わり、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、「豊かな発想と確かな品質で、人が生きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとし、顧客のニーズを的確に捉えたクオリティの高い製品とサービスを社会に提供することで、企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高となりました。

決算ハイライト（連結）



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

配当金についての基本方針

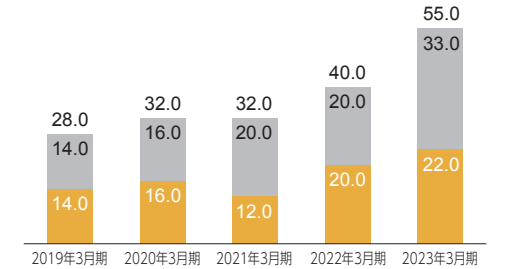
当社グループは、株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要政策のひとつとして位置付けております。

利益配当政策につきましては、業績に応じた適正な利益配分を目指すとともに、財務状況、将来の事業展開及び内部留保などを総合的に勘案し、安定配当の維持にも努めてまいりたいと考えております。

配当金

第88期 期末 33円
(年間55円)

単位：円
■ 中間
■ 期末



事業別セグメント概況



▶ より詳細な決算情報は、右記の2次元バーコードよりアクセスいただき、当社IRトップページからご覧いただけます。

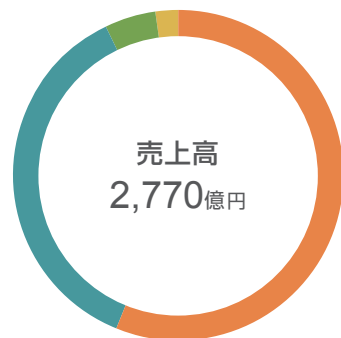
第88期 決算のポイント

オフィス環境事業は、ハイブリッドワーク普及にともなうリニューアル需要が旺盛に推移、価格転嫁の浸透等で資材価格上昇分を吸収し、売上高・利益ともに過去最高。

商環境事業は、スーパー、ドラッグストアを中心に改装需要が堅調に推移、資材価格上昇の影響を受けながらも、売上高・利益ともに横ばい。

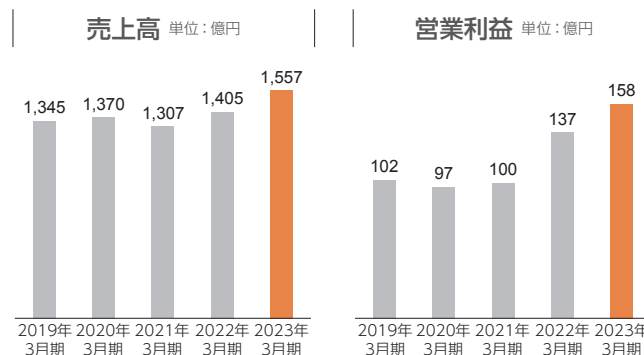
物流システム事業は、コロナ禍における影響で一時的に大きく減少していた受注高が順調に回復し、増収となるも、資材価格の上昇などにより減益。

事業別ハイライト



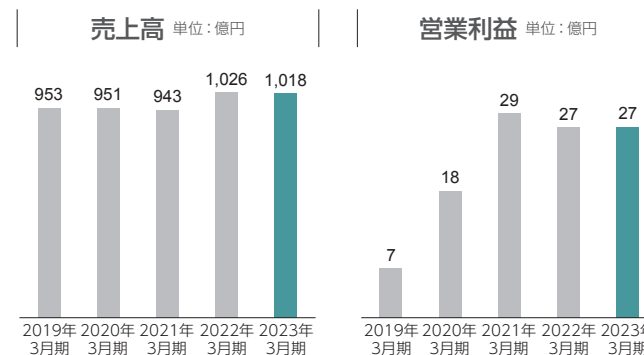
	売上高構成比	売上高	営業利益
■ オフィス環境事業	56.2%	1,557億円	158億円
■ 商環境事業	36.8%	1,018億円	27億円
■ 物流システム事業	4.9%	136億円	△11億円
■ その他	2.1%	57億円	0億円

(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。



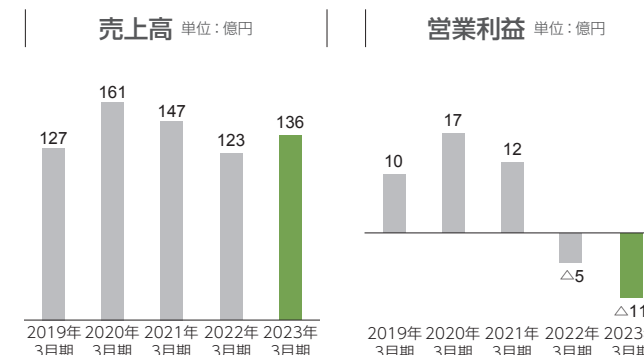
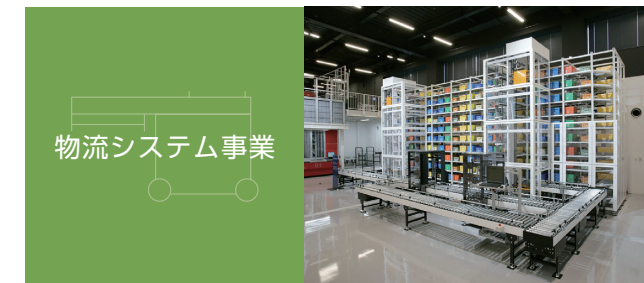
オフィス環境事業につきましては、新しい働き方に対応したオフィスの構築が、業種・規模を問わず多くの企業にとって重要な経営課題となっており、全国でオフィスのリニューアル需要が活発に推移しました。このような状況のもと、当社は、ハイブリッドワークとデジタル時代に対応した新しいワークスタイルの提案営業と、それを支える働き方の変化を捉えた新製品の拡充により需要の取り込みに努めました。またDB&B社買収による海外売上の増加もあり、売上高、利益ともに過去最高となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、155,760百万円（前期比10.8%増）、セグメント利益は、15,885百万円（前期比15.3%増）となりました。



商環境事業につきましては、当社の主要顧客であるスーパー、ドラッグストア等の小売業を中心に、改装需要が好調に推移いたしました。このような状況のもと、店舗什器、冷凍冷蔵ショーケースをはじめとした幅広い製品ラインナップと、店舗デザインや施工管理等を含む店舗づくりのトータルサポート体制による当社の総合力を活かした提案を展開し需要の取り込みに努めました。また諸資材・部品の価格高騰の影響を大きく受けましたが、生産・物流コスト削減に努めるとともに、下半期より価格転嫁が徐々に浸透し始めたことにより、売上高、利益ともに前連結会計年度から横ばいとなりました。

この結果、当セグメントの売上高は、101,842百万円（前期比0.8%減）、セグメント利益は、2,721百万円（前期比0.7%減）となりました。



物流システム事業につきましては、労働人口の減少と電力高騰を背景とした省人・省力化への要望は強く、大型物流施設を中心に自動倉庫の需要は高水準で推移しております。このような状況のもと、優位性のある製品の強みを最大限に活かした積極的な提案活動を展開してまいりました。足元での受注高は堅調に増加しており、前連結会計年度に比べ、売上高は増加いたしました。しかしながら、諸資材・部品の価格高騰により、利益は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、13,624百万円（前期比10.2%増）、セグメント損失は、1,196百万円（前期は590百万円のセグメント損失）となりました。

特集 新中期経営計画を策定

2023年5月10日に、新たに2024年3月期から2026年3月期までの3カ年を対象とする「中期経営計画2025」を策定しました。



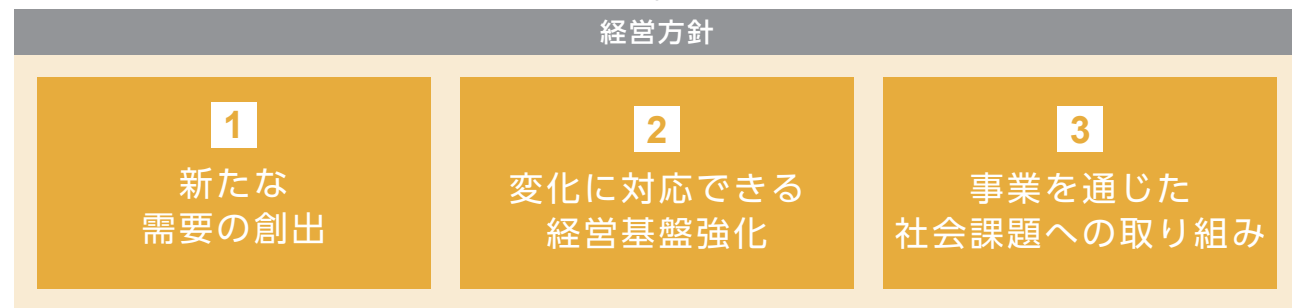
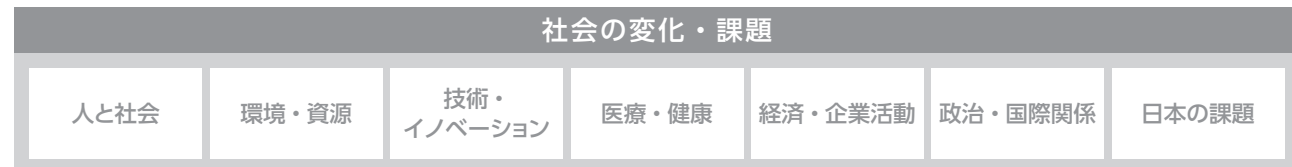
◀ 詳細はこちら

中期経営計画2025

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS00990/36ee3469/4d1f/47a6/8f09/6e1e7841ed74/20230427164418297s.pdf>

オカムラの経営方針

オカムラグループは、新たな需要の創出と変化に対応できる経営基盤強化を図るとともに、事業を通じた社会課題解決に取り組みます。



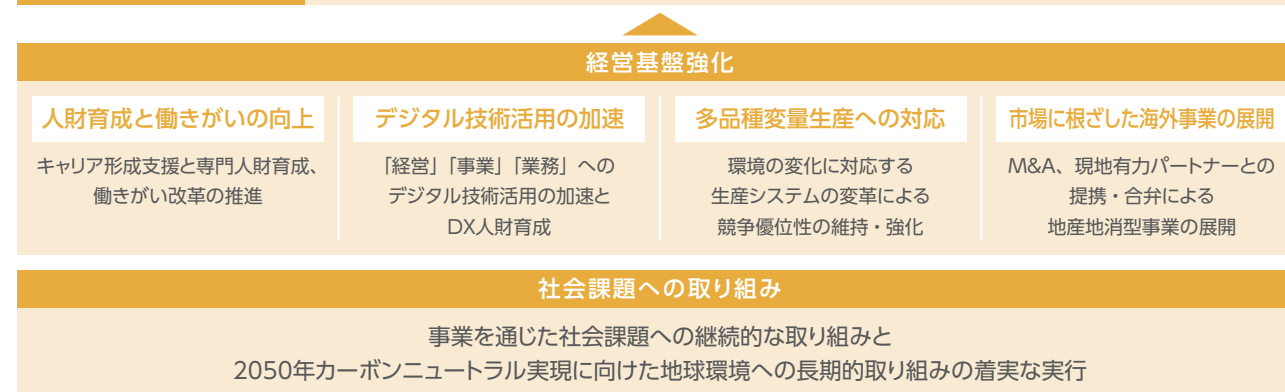
オカムラのミッション
豊かな発想と確かな品質で、人が生きる環境づくりを通して、社会に貢献する。

「人が生きる」という価値観について

「人が生きる」とは、それぞれが個性を発揮しながら、自分らしく生き活きと働き暮らすことができることを意味します。また、自分を取り巻く人々や組織とのよい関係性の中で、新しい価値が生まれてくる状態も表しています。一人ひとりが自ら活き、他者と互いに活かし合うことで、仕事も会社も、そして社会全体も活きてくるといった考え方です。

中期経営計画2025で目指すもの

新たな需要の創出 時代の流れを捉え、提案力と製品力を磨き、「需要創出型企業」への変革を加速する



投資と株主還元の基本方針（抜粋）

- 成長に向けた投資：戦略投資枠として500億円を設定し、既存事業の強みの維持・強化と新規市場・事業開発にバランスよく投入
- 株主還元：配当性向は、前中期経営計画より引き上げ、40%以上を安定的に維持。自己株式の取得は、投資の実行状況や外部環境等を踏まえ柔軟に対応

前中期経営計画の振り返り

総括	コロナ禍や人手不足といった社会の変化を需要に変えつつ未来への種を播いた3年間。基本方針である「新たな需要の創造」と「事業構造の変革」は目論見通りに進展しました。
主な成果	新たな需要の創造 <ul style="list-style-type: none"> ● ハイブリッドワークとデジタル時代に対応した新製品の開発 ● 省人化、省エネルギー対応の店舗什器・設備の開発 ● ロボティクス技術を活用した物流システム機器の開発
	事業構造の変革 <ul style="list-style-type: none"> ● 多品種変量生産に対応するサプライチェーン変革の方向性に向けての着実な前進 ● デジタル技術活用に向けたリテラシー向上の全社プラットフォームの構築 ● M&Aによる中国・アセアン市場のハイエンドオフィスマーケットへのアクセス確保
業績推移	サプライチェーン混乱、資材価格高騰による影響を受けるも、社会の変化に柔軟に対応し需要を創出。売上高は2期連続、営業利益は4期連続で過去最高を更新しました。

10月

- 7製品が「2022年度グッドデザイン賞」を受賞、ポータブルバッテリー「OC (オーシー)」など2製品は「グッドデザイン・ベスト100」に選出
- 乾湿両用掃除機に対応、ビル共用スペースや店舗の通路などの床掃除を行う業務用掃除ロボット「STRIVER II (ストライパー2)」を発表

11月

- 「オカムラブランドフェア2023」を開催
- オフィス環境新製品の発表・発売
 - ・クリエイティブファニチュア「WORK VILLA (ワークヴィラ)」発売 **P9**
 - ・建材製品「Lives Architectural Products (ライブス アーキテクチュラル プロダクツ)」3製品を発売
 - ・タスクシーティング「Potam (ポータム)」発売 **P9**
 - ・「Contessa II (コンテッサ セコンダ)」20th アニバーサリーモデル発表 **P10**
 - ・「Contessa II」サーキュラーモデル発売 **P10**
 - ・ワークブース「TELECUBE by OKAMURA」新モデル発表
- 「未利用材」を新たなマテリアルとして製品に活用する取り組みを発表 **P10**
- 建材製品3製品が環境認証「LEVEL認証」を国内間仕切建材メーカーで初めて取得

12月

- 中国におけるオフィスチェア製造事業を目的とした新会社「杭州奥カムラ家具有限公司」を設立・工場稼働開始
- タスクシーティング「Spher (スフィア)」に搭載の「椅子の体格感知部品」が「2022年“超”モノづくり部品大賞」の「日本力 (にっぽんぶらんど) 賞」を受賞
- 「人と人が活かし合う」社会の実現に向けたラボオフィス「We Labo (ウィラボ)」オープン **P12**
- オフィスデスク「REGAS (リーガス)」とラウンジファニチュアコレクション「Phlox (フロックス)」が、ドイツのデザイン賞「German Design Award 2023」を受賞

1月

- オフィスシーティング「CYNARA (シナーラ)」が米国「シカゴ・グッドデザイン賞 2022」を受賞
- オフィスにおけるコミュニケーション活性化、コミュニケーションロボットの導入による実証実験を開始

2月

- 「第57回スーパーマーケット・トレードショー2023」出展
- 「第7回サステナブル・ブランド国際会議 2023 東京・丸の内」「第5回未来まちづくりフォーラム」登壇・出展
- 物流システムショールーム「LUX」での「ORV」見学会を開催

3月

- 「Contessa II」20th アニバーサリーモデル発売を記念したメタバースイベント「バーチャル出荷工場ツアー」を開催
- 個人向けブランドECサイト「OKAMURA Lifestyle Store」ブランドオープン **裏表紙**
- 地震発生時の店舗における陳列棚からの商品落下を抑制する免震アジャスターキャップ「μ patch (ミューパッチ)」を発表

TOPICS
1

「オカムラブランドフェア2023」を開催

「オカムラブランドフェア2023」を、2022年11月9日~30日にガーデンコートショールームで完全予約・招待制にて開催しました。テーマは「ぶつける、本音。～組織を超えて、ハートビートするチームへ～」。真のイノベーションを生み出す部門の壁を超えたチームの編成に向けて、オフィスの活動の拠点「BASE」の中にチームの拠り所「BASE for TEAM」をつくり、個人で使用する場とチームで使用する場を合わせた新たな「BASE」の在り方を提案しました。



TOPICS
2

「第57回スーパーマーケット・トレードショー2023」出展

2月15日~17日に開催された「第57回スーパーマーケット・トレードショー2023」に出展しました。「イマに、こたえる。サキを、かなえる。」をキーワードに、お店づくりにおける「イマ」すぐにできる/必要なこととして、省エネ対策や省力化支援、買いやすさの追求といった課題解決を、その「サキ」にやってくる未来/新しいこととして、もしもの備えやデジタル&ロボットといった新たな提案などを紹介しました。



TOPICS
3

物流システムショールーム「LUX」での「ORV」見学会を開催

物流システムショールーム「LUX (ルクス)」では、月に1回、物流システムの導入を検討しているお客さまに対して見学会を開催しています。2月17日には、不定期で開催しているカゴ車搬送自律移動ロボット「ORV (オーアールブイ)」をメインとした見学会を開催しました。お客さまの反響が大きく、2022年10月に続き2回目の開催です。「ORV」がピックアップ地点から搬送先を繰り返し行き来する巡回搬送や、カゴ車ごとに指定された搬送先へと振り分ける仕分け搬送、カゴ車の整列配置などのデモンストラーションを行いました。



チームの結束力を高め、チーム内外と交流を生み出すクリエイティブファニチュア
「WORK VILLA (ワークヴィラ)」



オフィス出社とテレワークを組み合わせたハイブリッドワークは、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方である一方、一人ひとりの様子がわかりにくくなり、コミュニケーションが取りにくいという課題があります。「WORK VILLA」は、ソファやミーティングテーブル、シェルフなどで構成されたチームメンバーの溜まり場となるスペースと、溜まり場から外へつながる縁側を組み合わせたユニットです。ユニットを複数配置することでユニット間にできる小路では、通る人と縁側に腰掛ける人との偶発的なコミュニケーションを生み出します。チームの溜まり場としてほどよいこもり感を有しつつ、内と外を縁側でつなぎコミュニケーションを広げます。



環境面と機能面に配慮した新しいスタンダードとなるタスクシーティング
「Potam (ポータム)」



限りある資源をより長く有効に使用し、廃棄物の発生を最小化するものづくりを目指す「サーキュラーデザイン」の考え方に基づき、使用済みのオカムラ製品を回収・分別して新たな製品の材料の一部として使用する「循環型の製品」を開発する「Re:birth (リバース)」プロジェクトを開始しました。オフィスチェアの使用済み樹脂脚を回収し、分別・粉砕を経て、再び新たな樹脂脚として生まれ変わったリサイクル脚をタスクシーティング「Potam」のサーキュラーモデルに使用しています。「Potam」は、環境面にも機能面にも配慮した新しいスタンダードとなるオフィスチェアです。張材には廃棄生地をリサイクルした再生材使用率100%のファブリック「Twill (ツイル)」をラインアップしています。



森林整備の際に発生する「未利用材」を
 新たなマテリアルとして製品に活用する取り組みを推進



未利用材とは、森林整備の際に発生した不要な樹木や切り捨て材の未使用の材のことです。未利用材の活用は、森林整備に寄与し、災害時の流木などによる被害の防止など、社会課題の解決にもつながります。今まで家具に使われてこなかった未利用材の低質材や根元部、曲がり材、枝、葉などを積極的に活用する取り組みを進めています。知見と技術を有する企業と協業し、国内の未利用材やダムにたまった流木を資源として回収、チップ化して天板に成型。完成した天板は、エッジが柔らかく縁材がないためチップの木の風合いを感じるデザインです。この天板をクリエイティブファニチュア「SPRINT (スプリント)」のテーブル天板に使用し発売しました。



「Contessa (コンテッサ)」発表から20周年
 「Contessa II (コンテッサ セコンダ)」サーキュラーモデルを発売



「Contessa」は、イタリア・トリノのデザインファーム「ITALDESIGN (イタルデザイン)」とのコラボレーションにより、2002年にドイツの国際家具見本市「ORGATEC」にて発表しました。多様なワークシーンや姿勢に対応する優れた機能と、流麗なアルミフレームと透過性の高いメッシュの軽やかさなど、20年経っても色あせない普遍的なデザインを創出しました。20周年を記念してスペシャルカラー2種の「Contessa II」アニバーサリーモデルを限定発売しました。

また、「サーキュラーデザイン」の考え方に基づく製品開発により、サステナブルな素材を用いた「Contessa II」サーキュラーモデルを発売しました。



「Contessa II」
 アニバーサリーモデル

「Contessa II」
 サーキュラーモデル

サステナビリティに関する取り組み

オカムラグループのサステナビリティに関するトピックスや外部評価の実績をご紹介します。

■ オカムラの静岡県内の生産拠点である御殿場事業所の電力を太陽光発電による再生可能エネルギーへ切り替え



2050年カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの一環として、2023年2月より、静岡県の生産拠点である御殿場事業所へPPAモデル*による太陽光発電設備を導入し、電力の一部を太陽光発電による再生可能エネルギーへ切り替えました。導入した設備は太陽光パネル1152枚で、総パネル面積は約2500平方メートル、年間発電量は約570MWh。これによりCO₂排出量を年間約250t削減することができます。

* 発電事業者が、企業など需要家の敷地内に太陽光発電設備を発電事業者の費用で設置し、所有・維持管理した上で、発電設備から発電された電気を需要家に供給する仕組み。

■ 各種イニシアチブへの参加



2022年8月に、オカムラグループが掲げる温室効果ガス排出削減目標が、パリ協定に準じた世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃に抑えるための科学的根拠に基づいた目標であるとして、国際的なイニシアチブ「SBTi (The Science Based Targets initiative)」によるSBT認定を取得しました。

■ サステナビリティに関する主な外部評価（2022年度）

オカムラの各取り組みに対して、さまざまな評価をいただいています。

2022年度の主な認定・アワード実績

<p>Ecovadis 「ゴールド」</p>  <p>(2022年11月)</p>	<p>CDP気候変動「A-」</p>  <p>(2022年12月)</p>	<p>第4回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン (環境サステナブル企業 特別賞)</p>  <p>(2023年2月)</p>
<p>えるぼし認定 (2段階目)</p>  <p>(2020年12月より継続)</p>	<p>健康経営優良法人2023 (ホワイト500)</p>  <p>(2023年3月)</p>	<p>くるみん認定</p>  <p>(2022年11月)</p>

オカムラのサステナビリティ最新情報 <https://www.okamura.co.jp/company/sustainability/news.html>



Case Study

オカムラの「HEADQUARTERS OFFICE」を「人と人が活かし合う」社会の実現に向けたオフィス「We Labo (ウィラボ)」としてリニューアル



大きく配置したフリースペース。席の予約が必要なく、一人ひとりに合った働き方ができる



ゆるやかに仕切られたチームのための空間。チームで使用していないときは個人で利用できるワークスペースになり、他部門の人とのコミュニケーションの場としても機能する



「人が活きる」という価値観を壁面アートで表現。空間を彩るとともに、「オカムラウェイ」を身近に感じられる

「We Labo」は、「人と人が活かし合う」社会を実現するために、個性と個性がつながり合うことで最大化される「わたしたち」としてのアイデンティティが発揮できる働き方を実験・検証するオフィスです。オカムラの経営理念を体系的に整理した「オカムラウェイ」の根幹としてある「人が活きる」という価値観を体現しました。

新しい働き方や環境を実験・検証する働き方改革の実践の場「ラボオフィス」のひとつとして、職種、地位、世代、ジェンダーなどの違いを力に変え、個性と個性がつながり合うことによって最大化される「わたしたち」としてのアイデンティティを生み出します。オカムラはそれを「ウィデンティティ」と呼び、このオフィスを「We Labo」と名付けました。

従業員一人ひとりが自分の個性を発揮でき、他者としなやかにつながりコミュニケーションを通して働きやすい環境をつくり、「人と人が活かし合う」働き方を目指します。

※表紙と左上の写真は、株式会社ナカサンドパートナーズによるものです。

連結財務データ



▶ より詳細な決算情報は、右記の2次元バーコードよりアクセスいただき、当社IRトップページからご覧いただけます。

	第84期 (2019年3月期)	第85期 (2020年3月期)	第86期 (2021年3月期)	第87期 (2022年3月期)	第88期 (2023年3月期)
主な経営成績 (百万円)					
売上高	247,925	253,170	244,454	261,175	277,015
営業利益	12,418	13,391	14,175	15,972	17,372
経常利益	13,677	14,712	15,377	17,491	18,924
親会社株主に帰属する当期純利益	10,234	9,851	11,971	14,992	15,906
純資産	130,403	135,497	139,776	144,121	152,702
総資産	229,276	236,327	245,473	245,372	252,914
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,464	14,501	26,921	5,328	13,491
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,436	△5,661	△833	△2,264	△6,660
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,860	△4,388	△13,073	△8,601	△9,485
1株当たりデータ (円)					
純資産	1,179.63	1,219.18	1,381.61	1,459.34	1,592.79
当期純利益	92.92	89.44	112.51	151.26	163.15
配当金	28.00	32.00	32.00	40.00	55.00
主な指標					
売上高営業利益率 (%)	5.0	5.3	5.8	6.1	6.3
自己資本比率 (%)	56.7	56.8	56.5	58.1	59.6
ROA (総資産経常利益率/%)	5.9	6.3	6.4	7.1	7.6
ROE (自己資本当期純利益率/%)	8.0	7.5	8.8	10.7	10.8
PER (株価収益率/倍)	12.5	9.7	11.5	8.0	8.4
配当性向 (%)	30.1	35.8	28.4	26.4	33.7
総還元性向 (%)	30.1	35.8	101.6	49.8	58.7

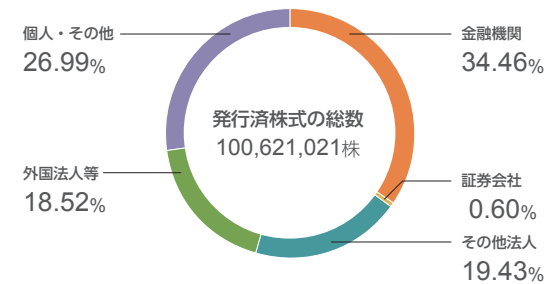
(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第87期の期首から適用しており、第87期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
 2. 記載数値は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
 3. 記載%表示は、表示単位未満を四捨五入して表示しております。

会社情報 (2023年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	100,621,021株
株主数	7,290名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,020	11.62
オカムラグループ従業員持株会	5,813	6.13
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,582	5.89
日本製鉄株式会社	5,313	5.60
明治安田生命保険相互会社	4,892	5.16
株式会社三菱UFJ銀行	4,350	4.59
オカムラ協会持株会	3,789	4.00
三井住友海上火災保険株式会社	3,036	3.20
株式会社横浜銀行	2,853	3.01
オカムラディーラー共栄会	1,700	1.79

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、自己株式(5,783,091株)を控除して計算しております。

会社概要

設立	1946年7月
資本金	186億円
登記上本社	横浜市西区北幸二丁目7番18号
本社事務所	横浜市西区北幸一丁目4番1号
従業員数	3,844名

取締役及び監査役 (2023年6月27日現在)

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役(社長執行役員)	中村 雅行	
取締役(専務執行役員)	河野 直木	オフィス環境事業本部長
取締役(常務執行役員)	山木 健一	コーポレート担当
取締役(常務執行役員)	井上 健	商環境事業本部長
取締役(常務執行役員)	荒川 和巳	生産本部長
取締役(執行役員)	福田 栄	コーポレート担当
取締役(社外)	伊藤 裕慶	株式会社・パートナーズ社外監査役
取締役(社外)	狩野 麻里	伊昭和女子大学全学共通教育センター特命教授
取締役(社外)	上條 努	サッポロホールディングス社特別顧問
取締役(社外)	菊地 美佐子	伊聖路加国際大学常勤監事
取締役(社外)	水本 伸子	株式会社顧問
取締役(社外)	丹保 人重	
監査役	永井 則幸	
監査役	萩原 圭一	
監査役(社外)	鈴木 祐一	弁護士
監査役(社外)	岸上 恵子	公認会計士

執行役員 (2023年6月27日現在)

地位	氏名	担当
常務執行役員	佐藤 喜一	コーポレート担当
上席執行役員	田尻 誠	物流システム事業本部長
上席執行役員	牧野 博	オフィス環境事業本部 営業本部 テレコム営業本部長
上席執行役員	酒徳 真司	商環境事業本部 リテイル・ソリューション本部長
上席執行役員	大野 嘉人	海外営業本部長
執行役員	近藤 岳文	オフィス環境事業本部 営業本部 ライフサイエンス事業部長
執行役員	佐藤 春徳	オフィス環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長
執行役員	有吉 真二	オフィス環境事業本部 営業本部 関西支社長
執行役員	寺西 郁	商環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長
執行役員	加藤 達也	生産本部 第二事業部長
執行役員	菱沼 博幸	生産本部 第一事業部長
執行役員	眞田 弘行	オフィス環境事業本部 マーケティング本部長

Information

個人向けブランドECサイト「OKAMURA Lifestyle Store」 が2023年3月29日にグランドオープンしました

「OKAMURA Lifestyle Store」は、個人のお客さまにオカムラのものづくりや働くことに対する考えをより深く理解いただき、オカムラのファンになっていただくためのECサイトです。製品の販売とともに、個々人のライフスタイルをより充実させるアイデアを見つけていくためのメディアとしてさまざまな情報を発信します。



個人向けブランドECサイト 「OKAMURA Lifestyle Store (オカムラライフスタイルストア)」
<https://lifestylestore.okamura.co.jp/>



オカムラウェブサイトIR情報ページのご案内

決算情報をはじめ、
最新の事業動向をご覧ください。

<https://ir.okamura.co.jp/>



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人/ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意) 株式に関する手続きのお届出先・ご照会先について

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、口座を開設された証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記、特別口座の口座管理機関の連絡先にお問い合わせください。

人を想い、場を創る。

OKAMURA

株式会社オカムラ

〒220-0004 横浜市西区北幸二丁目7番18号
TEL : 045-319-3401 (代)

